

第4回義務教育に係る政策研究会（概要）

- 1 日 時 平成18年3月28日（火） 午後2時～4時5分
- 2 場 所 京都府公館（第5会議室）
- 3 配付資料 別添のとおり
- 4 概 要

【事務局説明】

- ・「第1回～第3回のまとめ（案）」について（資料1）
- ・平成18年度当初予算の「4つの重点施策」について（資料2）
- ・「教育改革のための重点行動計画」について（資料3）
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「審議経過報告」の概要について（資料4の63頁～68頁）
- ・教育職員の週休日の振替に係る関係規則の改正について

【質疑応答】

- ・週休日に教員が出勤した場合、振替で休みが取れる期間をその出勤日の前8週、後16週まで拡大し、普段多忙で取りにくい休暇を長期休業期間に取れるようにしたということだが、現在、夏休みなどでは学校毎に全教職員が集まってしっかり研修する体制ができてきている。規則の改正により研修時に教職員の振替で全員揃わなくなるといった懸念があるが、その心配はないのか。

（府教委）

- ・学校にもよるが、研修等の予定はある期間にまとめて入れている。また、その予定は早めに示して、あえてそのような期間に休みを取ることのないよう事前に調整している。

【今後の対応等について】（事務局説明）

今年度の検討事項について、「第1回～第3回のまとめ」を踏まえ、次のような方向性で更に議論を進めてはどうかと考えており、協議内容等について意見を伺いたい。

「教職員の配置等の教育条件整備」について

- ・政策研究会での意見を踏まえつつ、国の動向を注視しながら市町村教育委員会と対応を図っていく。

「土曜日の有効活用」について

- ・家庭や地域社会との連携の促進についても踏まえつつ、土曜日を活用した子どもたちの学力の充実、体験活動の充実について、府としてどんな支援ができるか。また、京都府における週5日制の中で土曜日方策が打ち出せるのか。その議論をお願いし、今年度8月中には議論をまとめ、来年度の施策や、制度設計に間に合わせたい。

「総合的な学習の時間」について

- ・総合的な学習の時間については、国の動きも踏まえつつ、京都府においても教科、特別活動、選択教科との関係を整理し、課題を明確化して授業時間数の検討も含めて、府教委としての総合的な学習の時間の指針を示せないか、と考えているので、その点についての議論をお願いしたい。

《今後の議論の柱》

- ・土曜日等の活用方法について
- ・京都府版「総合的な学習の時間」の指針の策定について

【意見交換等】

- ・中学校での一番の懸案事項は部活動についてである。部活動の意義は大きく、その位置づけをどう捉えていくかについて整理をする必要がある。現在、教員が放課後や土・日曜日に指導しているが、土曜日などに学習会を実施することになると、教員の予定がバッティングすることになる。部活動を学校教育から離して、教員ではなく違う担当が指導するようにしない限りは、土曜日に学校で学習活動を行うことは条件的に難しい。おそらく生徒の部活動への加入率は80%を超えている。そうした現状を踏まえて考える必要がある。
- ・部活動が学習指導要領に位置づけられると、教育課程に関わってくる。しかし、国が学校週5日制を今後も維持していくとするなら、授業日数にはカウントできないという取り扱いは今後も続くのではないか。ただ、現実として部活動は教育活動として行っているため、それを例えば「学習活動日数」等新たな枠組みとしてカウントすることなどを研究して評価の対象としていくことが大事ではないかと思う。その枠組みには土曜日に行う体育・スポーツ活動も含むし、学習会や補充などの教科学習も含むこととする。授業日数と+ の教育活動日数・時数を研究して、その部分をきちんと学校の教育活動として位置付ければ、子どもや保護者へ評価を返すこともできると思う。
- ・5日制のもとで実質的には土曜日に教育活動を行っているのに授業日数にはカウントされないということは、先生方の勤務に関して微妙な問題を与える。その点をどのように落ち着けるかが課題である。そのことと土曜日や長期休業日の在り方の問題、それから総合的な学習の時間の課題は、すべて絡んでくるところがあると思う。
- ・中学3年生における総合的な学習の時間の授業時数が多い。週28時間の中で6～7時間くらいが総合的な学習の時間と選択教科との時間になる。1年生などであれば多少多くてもさまざまな経験をさせるのはよいと思うが、進路に向けて集中している時期に多くの時間を総合的な学習の時間に費やすのはどうか、とつねづね思っている。

- ・実態として「授業日数」と部活動等の「教育活動を行う日数」では内容的に違いがある。しかし、これから新しい取組を展開するにあたり、その構造を制度的に明確にすることで何が生まれるのか、部活動は本当に必要な活動なのか、どういう意味があって部活動を行っているのか、という基本的な部分を改めて考える必要がある。もしも部活動が青年期の子どもの発達に必要なならば、誰かが受け皿にならなければならない。学校、地域、社会体育等がどのように連携していくかが課題である。中学校の先生の意識としては、部活動は非常に大切であり学校が手離すのは困ることなのか、あるいは地域、民間など社会体育として行ってくればよいということなのだろうか。
- ・顧問の教員の本音としては、部活動を熱心に指導し出せばきりがなく土・日曜日まで指導せざるをえなくなり、忙しさのあまり普通の授業等に影響が出る恐れもあるため、手放したいという思いがあるのではないかと。しかし、学校教育を効果的に進める上で部活動の役割は大きく、意義があるのも事実なので学校がやらざるを得ないという状況である。
- ・さまざまな個性を持った先生方によって学校という集団が形成されているのだから、先生方がそれぞれ持ち味を生かして、子どもたちのスポーツ、文化的なニーズに応えていく仕組みを作っていくことは大切ではないか。先生方だけで大変なら地域の手も借りることも1つの方法である。学校が全部担うのではなく、地域へ全て返すということでもない、新しい第三の方法のようなものが考えられないだろうか。
- ・現在では外部指導者や地域の方などさまざまな指導者に部活動の応援に加わっていただいている。以前は自分の思い通りにいかない等の理由で顧問の方が嫌がっていた面があるが、やはり来ていただくと助かることも多いのでどんどん増えてきている。
- ・さまざまな人々の協力で部活動を盛り立てていくことによって、子どもたちを変えることにもなるし、部活動に熱心でない先生方も部活動の意義を理解してみんなで取り組もうという雰囲気や創られていく。そのようにして学校を変えていくことが必要なのではないかと。思う。
- ・部活動があるからこそ、教員が子どもたちを惹きつけられるということもある。完全に学校の手を離れ、社会体育に移行すると学校での子どもたちの関わり方に新たな課題が出てくると思う。実態から見て、部活動は学校教育の範ちゅうであり、教師による部活動における技術的な指導も含めた人間教育を行うという重要な役割を担っていると捉えられるのではないかと。思う。指導者は部活動を通して子どもたちに文武両道を説いている。「運動をしっかりとやるなら勉強もしっかりがんばれ」と指導していると思うし、部活動に熱心な子は学力面で大きな課題を抱えている子は少ないと思う。例えば、土曜日に部活動をする子は部活動をがんばればよいし、しない子どもは学習活動に参加する、といった弾力的な取組を行うという考え方でよいのではないかと。思う。
- ・学校主導での土曜日等の活動はさまざまだが、地域、家庭との連携方法についてガイドライン的にある程度示しておいたほうが、取組のレベルを維持できると。思う。

- ・運動系の部活動中心の話が進んでいるが、土曜日の活用の仕方としていわゆる学力充実・向上に係る取組をどのように位置づけていけばいいのか、方向性だけでも示すことができれば、この場で課題を確認することができるのではないか。
- ・授業日数と「教育活動日数」を分けて把握することによって、それぞれの学校でこれだけの時数を確保することができるという計画が立つ。それにより、学習活動に充当できる時間は本校ではこれだけであり、それを最も効果的に使うためにはどのようにするか、どういう学校の体制を組めるかということを検討していけば、学校毎の課題に照らして、それを補充する学習活動内容が見通せるし、学校毎に教育活動に必要な予算なども見えてくると思う。
- ・中教審の審議経過報告では土曜日等における子どもの自主的な学習活動で、特定のものについては、学校において積極的に評価することも考えられる、とある。そうになると、土曜日にこんなことするから集まれるものは集まってやろうという程度ではなく、授業と同レベルで考えないと評価は難しいと思う。また、土曜日は子どもたちを地域に返すんだ、という意識が学校にはまだ残っている現状では、子どもたちを評価できるところまで土曜日の学習活動を位置づけるというのは難しいのではないか。
- ・現在の子どもたちの状況を見ていると土曜日を活用して子どもたちの学力を充実すべきであるという方針を強く出すべきなのか疑問である。子どもたちの休日の過ごし方は子どもなりにかなり定着してきている。それは決して悪いことではなく、自身がやりたいことを主体的に選んで生き生きと活動している。したがって、教科の学力充実のための取組は、あくまで子どもたちの土曜日の過ごし方の選択肢の一つであるべきだと思う。土曜日の有効活用における学力充実・向上策のイメージを、もっと広い範囲で捉えられないか。
- ・土曜日を自分なりに、主体的に過ごせないでいる子どものために、どのようにして体験活動、広い意味で言う学力充実のためのメニューを揃えていくことができるか、場をどれだけ設定できるかが課題ではないか。学校だけでなく、PTA等地域の力を借りながらどうしていくかについて議論すべきだと思う。
- ・学力をもっと広く捉えてはどうか。教科の学力を支えているのはさまざまな体験や経験である。今そうした体験等によって得られる力が弱いから学力問題が起こるといふ側面もあるので、体験や経験といったすそ野の部分が充実した子どもたちの生活をどう創っていくか、その視点から土曜日の過ごし方を考えていかなければならない。また、学校の教科指導と土曜日の過ごし方とをどうつなぐか、という発想が必要である。
- ・土曜日には教科学習を行うのではなく、さまざまなことを学ぶ機会をつくるのが大切である。そのために必要な学習意欲をどう子どもたちに身に付けさせるか。子どもが学習する意欲を持てば、土曜日でも自分で主体的に動けると思う。
- ・学習習慣を定着させるのは大切である。学びの習慣、意欲、それらを子どもたちに身に付けさせるための指導が必要なのは間違いない。

- ・学校がそこまで抱えてできるかという点と難しい。やはりきちんとすみ分けをし、学校の守備範囲はどこまでだ、ということも考える必要があるのではないかと。また、5日制におけるさまざまな仕組みを考えていく上で、コストと時間を使った分の成果、子どもたちの変化をきちんとチェックする必要があるということも考えておく必要がある。土曜日の有効活用と総合的な学習の時間の指針について議論していく上で、評価という観点は必ず関わってくる。それを意識し、仕組みの中に組み込んでいくことが大事である。
- ・学習指導要領で教科時数が定められており、その時数内で教えるべき内容が全て終わるよう年間指導計画をたててはいるが、実際には些細なことでも授業が5分短縮になったりして、その積み重ねにより授業時数が確保できないということも起こりうる。長期休業期間等をもう少し見直し、授業日数・時数を増やす必要があるのではないかと。ある程度余裕を持った授業時数の中で教科指導を行ったり、演習を行ったりしていくことが、学力を向上させるためには効果的である。また、中学校では教科で担当教員が変わるため教科ごとに宿題を出すと重なって多くなるなどの理由でほとんど出していないのが現状であったが、教員の間で量を調節して計画的に宿題を出すという取組を試みたところ、子どもたちの意識も変わり家庭学習の時間が増えてきたという声を聞いた。子どもたちの学力の向上に向けて、普段の学校教育の内容の充実や授業時数の確保等、学校現場の中で今後工夫していける面がまだまだあるのではないかと。
- ・授業日数を確保する、また増やすためには、具体的には2学期制にする、あるいは長期休業期間を短くするという方法が考えられるが、現在、京都府内で2学期制を実施している学校はあるのか。

(府教委)

- ・京都府内では、1市、1町で取り組んでいる。その取組の広がりについては今のところ見られない状況である。

- ・授業日数を確保するためには、校長会などからは管理運営規則を改正して、長期休業期間を短くしてほしいという意見を聞いている。しかし、管理運営規則の改正が授業日数増加の風潮をエスカレートさせる糸口となる懸念もある。
- ・国は制度として5日制を維持しつつ、家庭や地域との連携を促進する方向で土曜日の有効活用方策を考えていく動きのようだが、京都府としての方向性はある程度持っているのか。京都府独自の考え方として、家庭や地域社会との連携よりも、教科の学力充実に土曜日を活用する方向にシフトしようという思いがあるのか。

(府教委)

- ・府議会などでも土曜日の有効活用について関心が高まっており、その発言等を伺う中では「教科の学力充実」ということも検討していかなければいけない1つのテーマだと考えているが、必ずしも画一的にこういう取組をしないといけない、とするのではなく、弾力的な、子どもが自ら選べる仕組みを考える必要がある、と思っているところである。

基本的に国の考え方と大きな違いはないが、さまざまな子どもがいる中で、子どもたち一人一人に対応できるシステムづくりができないかと考えている。公教育は一体何を担い、それをどう果たしていくのか、ということ

責任を持ってきちんと示していく必要があると思っている。

- ・公教育の中でも我々が今検討しているのは義務教育に関する部分であるということは絶対に忘れてはいけない。義務教育として何が大事なのか、ということを考えることが必要ではないか。したがって、土曜日は子どもたちが興味関心を持てるものをやればよいだとか、楽しければいい、親や地域に協力してもらえばいい、というだけで果たして良いのか疑問に思う。
- ・小学生の子たちの場合は、いろいろな活動の場において楽しむだけで十分ではないか。楽しむことがまず第1歩だと思う。また、子どもたちの活動する場づくりを考える際に、こういうことをするから集まりなさい、というように枠を決めて集めるのではなく、子どもが集まることで逆に枠を決めていくんだ、という考え方がなかなか見られない。そこにみんなが行くから行こう、という意識を子どもたちに持たせることが、土・日曜日の活動に積極的に参加させる大前提だと思う。